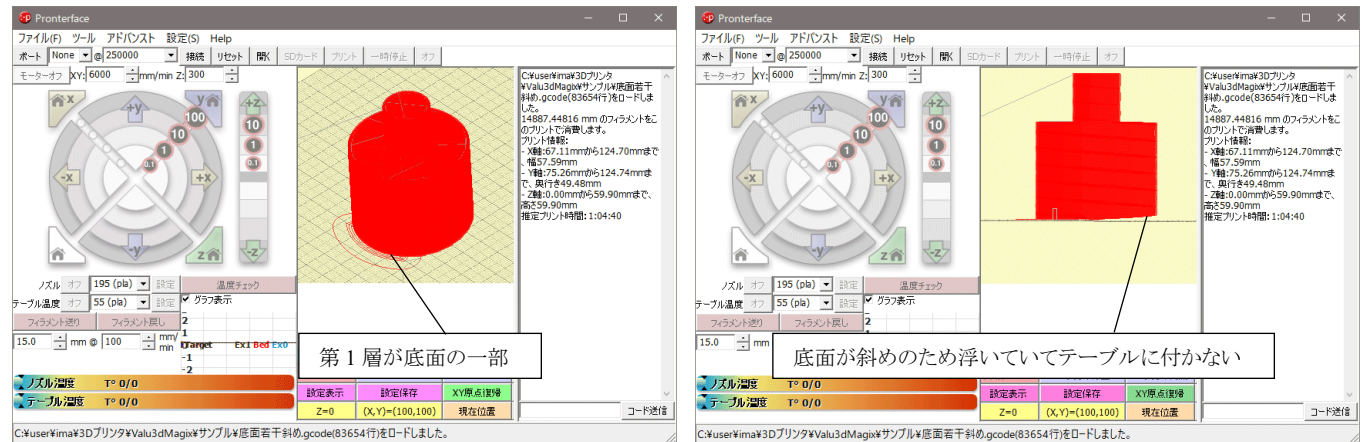


Title 底面を接地させる

発信日	2022/12/15
No.	43

1/1

STL データの底面が僅かに斜めになっていると、G コードにした際に、一部しかテーブルに付かず、ほとんど浮いてしまい造形ができません。若干回転すればサポートなしで造形できる場合、自動的に接地させる方法があります。



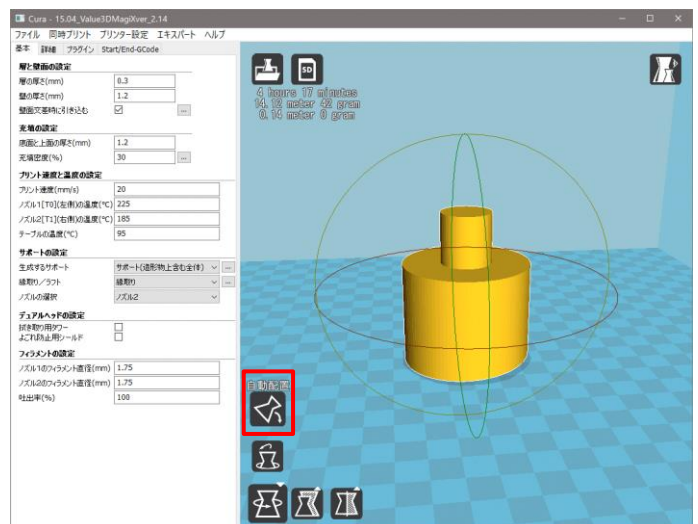
○Slic3r

スライサーの Slic3r では、自動的に接地させる回転ができません。角度が分かっていたら、その角度で回転させます。角度が分からない場合は、他のスライスソフトで回転させて、STL に書き出したものを使用します。

○Cura

Cura には、自動的に接地させるコマンドがあります。STL ファイルを読み込んで、「回転」アイコンの中の「自動配置」を選んで下さい。テーブルに一番近い面が自動的にテーブルに接地されます。

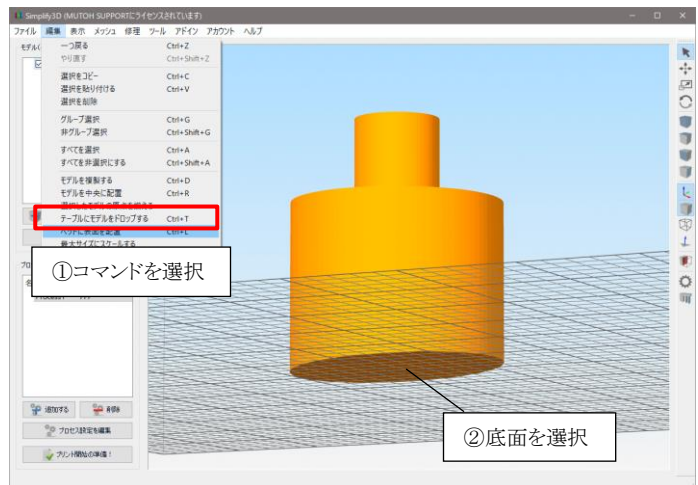
接地させた STL ファイルを保存する場合は、左上の[ファイル]から[モデルを保存する...]を選んで下さい。



○Simplify3D

Simplify3D の場合は、プルダウンの「編集」メニューから「ベッドに表面を配置」を選びます。このコマンドを選んだ後にモデル上でクリックした面が、ベッド面に配置されます(選んだ面が底面となる)。

STL ファイルの保存は「ファイル」メニューから「モデルをエクスポート」で行います。



以上